公明党

守りたい　地域の生命！　生活を！

おかもと陽子　通信

Vol 52
2026,07

発行：岡本陽子後援会　宗像市自由ヶ丘 7-6-1　0940-25-5344
taiyoudaisukinayoko@gmail.com 皆さんのご意見をおまちしています。

6月議会

7月23日に閉会しました。12議案が可決。市長3期目施政方針に対し代表質問行いました。

市長が目指す「未来を描けるまちづくりとは」

3期目を迎える伊豆市長が考える最も重要な課題は、「人口構造の変化」と答弁。つまりどの自治体も直面している少子高齢化、人口減少が進む中、本市が「選ばれるまち」になるため、生産人口の減少への対策、広域連携の必要性など語られました。大きな時代の変化の中で市民のみなさんの暮らしを守るために、代表質問で得た回答を含め、 今議会で見えた本市の課題は何か？について考えてみたいと思います。

物価高騰対策

問）福岡県内では3市2町が省エネ家電買い替え補助金を創設。本市はこうした市民生活に直結した物価高騰対策を行うのか。また様々な職種、市民生活に影響を及ぼしているナフサ不足対策は？

●農業・水産業者への支援として燃油価格高騰分、燃油補助、ラジコン草刈り機の貸し出しを行う。ナフサ不足に関しては原材料高騰による指定ゴミ袋製造費の増額補助を行い、市民負担を抑える。

子育て支援

問）こども誰でも通園制度、今後の受け入れ体制整備、利用促進の考えは。子育て支援新たな取組は。

●市内3園。87人が登録。令和8年3～4月110人が利用した。0～2歳児の預かり要望が多く課題。

問）その他の子育て支援

（Mo-Mo 無料利用券配布）

乳幼児健診時、3歳、5歳児に全天候型こども広場 Mu-Mo（ムーモ）の無料利用券配布を実施。

地域公共交通対策

問）自由ヶ丘南から赤間駅までの自動運転バス実証運行事業は令和6、7の2年間で約1億 2,000 万円の市税投入（国補助：7,030 万円）している。自由ヶ丘南の日中のバス運行がない状況で令和9年度以降自動運転バス本格運行の課題は。

●実証実験では路駐の回避、右回りが出来ないなどの課題があった。最終的に無人だが保安員は必要と判断。自由ヶ丘南の日中バスの不足はふれあいバス再編で補うことを検討している。

災害対策

問）キャンピングカーの災害活用。大規模災害において、キャンピングカーが避難所や支援拠点として活用され、その有効性が注目されている。能登半島地震では、応援職員の宿泊施設の不足により十分な支援活動が困難となり、キャンピングカーを活用したと聞いている。本市がキャンピングカーを災害対応車両として活用する考えは？

●本年7月に、RV 協会と提携し、災害時に活用できる仕組みを作る。

令和８年度　一般会計補正予算（第１号）（総額：9.3 億円）

1 物価高騰への対応（62 百万円）	• 指定ゴミ袋の原材料費が上昇 → 製造費を増額 • 農業・水産業への支援を強化（燃料・資材高騰への対策）
2 子ども・地域の学びと環境づくり（46 百万円）	• 企業誘致と体験ツアーで定住促進 • 教育現場の環境整備 • 地域クラブの活動環境改善・情報発信
3 まちの再生・交通の改善（6 億 88 百万円） ※最大規模	• 公共交通の利便性向上 • 日の里地区の都市再生プロジェクト • 赤間駅周辺の再整備 • 道路・農業施設などの改修（老朽化対策）
4 その他（1 億 32 百万円）	• 10 月開始予定の窓口受付時間短縮に向けた周知 • 最高裁判決に伴う生活保護費の追加給付 • その他の必要経費

「非核三原則の堅持を求める」意見書（案）を提出

提出者：公明党　木村武士市議

「核兵器のない平和を次世代へ確実に引き継ぐため、非核三原則の堅持を国に求めるものです。」

賛成 10：反対 9 で可決。国に要望書を提出します。



あゆみの会（代表：川瀬信博氏）のメンバーと懇談

医ケア児、重度心身障がい者を育てる保護者の方々から、生活する上で抱えている現状や課題について情報共有しました。18歳を過ぎた後の生活の場やレスパイト支援緊急時の受け入れ態勢などが十分とは言えない。医ケア児を市内で預けることができない。など現在も医ケア児や重度心身障がい者が住み慣れた地域で暮らし続けるための環境整備が十分でないことなどがわかりました。代表質問で親亡き後の支援の検討、緊急時の受け入れ、医療体制の充実など市長の考えを聞きました。こうした環境を整えるために私たちが寄り添い制度を整えるため今後も当事者の方の声を聞き政策実現する努力を続けます。

6月議会で示された

まちの課題への新しい政策

政策の3つの柱

① 人手不足　② 人口減少　③ 少子高齢化



課題１．人手不足



対策1. 市役所の受付業務の時間短縮。業務の効率化に取り組みます。各種証明書のコンビニ交付手数料値下げし「行かない窓口」の整備を進めます。コンビニ交付普及率70%目指します。それによって、使い方をサポートするなど市民サービスの低下につながらないよう努めます。

対策2. 運転手不足

市内では運転手不足によりバスの減便、廃止やタクシー会社の撤退が進んでいます。市は運転手確保のための補助制度を開始します。





最大 40 万円まで補助 運転士として働くチャンス。
公共交通を守るため、ぜひ制度をご活用ください。

問い合わせ
地域公共政策室 0940－36－9777(平日 8:30～17:15)
(10 月より9:00～16:00)

課題２．人口減少

課題３．少子高齢化

赤間駅北口、南口下りエスカレーター設置



令和8～9年
北口整備予定
令和 10～11年
南口整備予定

(赤間駅南口:令和7年7月6日撮影)

学校統廃合の必要性と課題

・**児童生徒数の減少**　少子化で学校規模が小さくなり、教育活動の選択肢が狭まる。(令和7年 9,714 人→令和47年 5,732 人に減少予測)

・**施設の老朽化**　築 30 年以上の校舎が65%(改修費が過去8年で31. 7億円)さらに膨らみ、維持が難しくなる。

・**不登校や多様な学びへの対応**　不登校が増加し、少人数校では支援体制を十分に整えにくい。(不登校児童生徒数　令和1年117人→令和7年352人、特別支援学級児童生徒数 H17年43人→令和7年590人)